

令和7年度 大阪府教育センター 研究フォーラム 実施要項

テーマ

大阪の子どもたちのウェルビーイングの向上
～生成 AI の時代に幸せに生きるために～

1 日時 令和7年12月25日（木）

午前の分科会	午後の分科会
9:30～12:30（受付9:00～）	14:00～17:00（受付13:30～）

令和7年12月26日（金）

午前の分科会	特別講演
9:30～12:30（受付9:00～）	14:00～16:00（受付13:30～）

2 会場 大阪府教育センター

（大阪市住吉区荻田4丁目13番23号 電話 06-6692-1882）

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m
JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

3 目的

調査・研究から得た知見等を、教職員・府民等に発信することで、府内の学校教育活動の発展に資する。

4 申込み

- 参加するには御所属に応じて、下記の申込み手続きが必要となります。
 - 大阪府の公立学校の教職員：全国教員研修プラットフォーム（Plant）により申込み
※ただし、大阪府の公立学校の教職員であるが Plant 上にアカウントがない方は、Google フォームにより申込み
 - 上記以外の方：Google フォームにより申込み申込みは、次の Web サイトから行ってください。
https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html
- 午前と午後の分科会等の両方を希望する方は、午前の分科会、午後の分科会等をそれぞれ申込みください。
- 申込み期間は、**令和7年10月24日（金）～12月11日（木）**です。
- 各分科会等とも定員に達した場合、抽選になります。申込みをされた方には、申込み締め切り1週間後をめどに、下記の方法により参加の可否をお知らせしますので、御確認ください。
 - Plant で申込みをされた方：Plant により通知
 - Google フォームで申込みをされた方：電子メールにより通知

5 参加に係る配慮事項

- 配慮を希望する方は、「受講に係る配慮事項申請書」に必要事項を入力の上、電子メールにて送付をお願いします。教職員の方は、管理職を通じて送付ください。
- 「受講に係る配慮事項申請書」は、次よりダウンロードできます。
https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html
ファイル名：R7_研究フォーラム_第〇分科会配慮事項申請書.docx
送付先アドレス：kyoiku-center-kousui@gbox.pref.osaka.lg.jp

6 分科会等一覧（敬称略）

第1分科会	定員 250 名	12月25日(木) 9:30～12:30
教員の気づきから始める支援 ～子どもの実態把握と指導・支援を考える～ 子どもの日常の小さな変化に気づくことは、支援の第一歩です。本分科会では、教員の気づきを出発点に、子どもの実態把握の方法や指導・支援の工夫について考えます。「通常の学級に在籍する支援が必要な子どもの指導・支援に係る調査・研究」に関する報告の後、関西福祉科学大学 丹葉 寛之 教授、四天王寺大学 長澤 洋信 准教授より、『子どもの支援に必要な教員の気づきとは？ ～実態把握のポイントと具体的な指導・支援～』と題して御講演いただきます。 ●報告 通常の学級に在籍する支援が必要な子どもの指導・支援に係る調査・研究－ガイドブック作成に向けて－ 大阪府教育センター 指導主事 ●講演 子どもの支援に必要な教員の気づきとは？ ～実態把握のポイントと具体的な指導・支援～ 丹葉 寛之（関西福祉科学大学 教授） 長澤 洋信（四天王寺大学 准教授）		

第2分科会	定員 200 名	12月25日(木) 9:30～12:30
不登校児童生徒への支援の在り方 ～子どもが安心して「話せる」、大人が「受け止める」支援体制の実現に向けて～ 国の「問題行動・不登校等調査」における不登校の要因把握につながる項目では、「やる気が出ない」「不安」等の回答が小中学校ともに半数を超えており、教職員にとって不登校になる子どもの状況が見えにくくなっていることが伺えます。子どものサインに早く気づくためには、子どもが自身のことを安心して「話せる」こと、その思いなどを大人がしっかり「受け止める」体制が校内に位置づけることが大切だといえます。 そこで、このような支援のきっかけとなる「SOSの出し方に関する教育」をSCとともにどう学校が作りあげるか、どのように子どもに働きかければよいのかについて具体的な実践等をお伝えします。また、昨今の傾向である不登校となる時期の低年齢化や、それに伴う保護者の不安の高まりに対して、市町村教育支援センターや学校がS W等とともに行う取組みについても紹介し、これからの不登校支援の在り方について、ともに考える場とします。 ●実践発表 昨今の不登校の傾向に即した校園種間連携と保護者支援の実践から 市町村教育支援センター、小中学校より ●講演 子どものサインに早く気づくための「SOSの出し方に関する教育」の実践から 大阪府公立学校スクールカウンセラーより ●ワーク 大阪府公立学校スクールカウンセラーより		

第3分科会	定員 100 名	12月25日(木) 9:30~12:30
府立高等学校におけるICTを活用した授業について①（午前の部） ～リーディングGIGAハイスクール事業～ リーディングGIGAハイスクール事業では、府立高等学校 30 校を「リーディングGIGAハイスクール」に指定し、生徒1人1台端末や電子黒板機能付きプロジェクタをはじめとするICTの効果的な利活用に向けた取組みを進めています。その成果の普及を目的として、リーディングGIGAハイスクールによる授業実践発表を行います。 （第3分科会を午前の部、第7分科会を午後の部としています。） ●実践発表 いちりつ高校・春日丘高校・桜塚高校・吹田東高校・豊中高校能勢分校・長尾高校 東淀工業高校・枚方高校・山田高校（50音順） ※第3分科会は2つの研修室に分かれて実施します。2つの研修室間の移動は可能です。		

第4分科会	定員 60 名	12月25日(木) 14:00~17:00
学び続ける教職員の育成 ～Plantを活用した研修の工夫改善～ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、教職員一人ひとりの資質能力・専門性の向上が必要不可欠です。本分科会の協議では、主体的に学び続ける教職員の育成に向けて、校内研修等をどのように創り上げていけばよいか、ワークショップを通じて考えていただきます。また、文部科学省 大根田 頼尚 室長より、教職員一人ひとりの資質能力・専門性の向上と、多様な専門性を有する教職員集団の形成に向けた国の動向等について御講演いただきます。 ●報告 全国教員研修プラットフォーム（Plant）の研修履歴を活用した受講状況の分析から考えるこれからの学びの形 ●講演 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について 大根田 頼尚（文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員免許・研修企画室長） ●協議 教職員を育てる魅力ある研修づくり		

第5分科会	定員 140 名	12月25日(木) 14:00~17:00
子どもの社会参画意識を育む教育実践 「こども基本法」を踏まえ、学校現場においては子どもの権利が尊重された学校づくりをこれまで以上に進めることが課題となっています。特に、より良い社会づくりに向けて参画していく力を育むため、「子どもの意見表明権」の保障に取り組む必要があります。子ども自身が権利を学ぶ意義とは何か、形式的な「見せかけの参加」(ロジャー・ハート(1992年))ではなく、本来の意味で子どもが「参加する」とはどういうことか。実践発表や講演を通して認識を深め、具体的な取組みについて協議を行います。 ●実践発表 東大阪市立八戸の里東小学校・府立八尾翠翔高等学校 ●講演 「子どもの権利」とこれからの学校社会づくり 園田 雅春(元大阪教育大学 教授) ●協議 子どもの意見表明権を保障する学校づくりに向けて		

第6分科会	定員 80 名	12月25日(木) 14:00~17:00
今を生きる子どもたちのSOSを受けとめるために ～心の危機にどう気づき、どう支えるか～ 急速に変化する現代社会は、時には子どもたちを不安にさせ、悩みや葛藤を抱えさせてしまうことがあります。私たちは今を生きる子どもたちのSOSに本当に気付いているのでしょうか。「自分は気付くことができているから大丈夫」ではなく、様々な観点から、改めて“自らの気づき”を問い直してみませんか。本分科会では、基調講演とパネルディスカッションを通して、子どもたちの心の危機にどう気づき、どう支えていくかについて、日々子どもと直接向き合う様々なパネリストとともに考えていきます。 ●講演 新井 肇(関西外国語大学 教授) ●パネルディスカッション 水流添 綾(スクールソーシャルワーカーSV) 鈴木 みやこ(SNS相談員SV) 河本 智(スクールカウンセラー) 郡山 鷹子(教員)		

第7分科会	定員 100 名	12月25日(木) 14:00~17:00
府立高等学校におけるICTを活用した授業について②（午後の部） ～リーディングGIGAハイスクール事業～ リーディングGIGAハイスクール事業では、府立高等学校 30 校を「リーディングGIGAハイスクール」に指定し、生徒1人1台端末や電子黒板機能付きプロジェクタをはじめとするICTの効果的な利活用に向けた取組みを進めています。その成果の普及を目的として、リーディングGIGAハイスクールによる授業実践発表を行います。 （第3分科会を午前の部、第7分科会を午後の部としています。） ●実践発表 工芸高校・高津高校・金剛高校・堺西高校・狭山高校・清水谷高校・ 住吉商業高校・農芸高校・花園高校・藤井寺工科高校（定時制）・みどり清朋高校 （50音順） ※第7分科会は2つの研修室に分かれて実施します。2つの研修室間の移動は可能です。		

第8分科会	定員 250 名	12月25日(木) 14:00~17:00
学習の基盤となる資質・能力の育成をめざした取組み 大阪府内すべての子どもたちの学力向上を目的としたスクール・エンパワーメント推進事業実施校より、学力向上や学習の基盤となる資質・能力の育成をめざした取組みについて実践発表していただきます。 また、参加者の方々には、実践発表を通じて考えたことや学んだことを交流したり、クラウドを活用してリアルタイムで質問したりすることで、学びを深めていただきます。 後半には、中京大学 泰山 裕 教授より、「子どもたちの資質・能力を育むための学習活動や授業改善」について、御講演いただきます。 ●実践発表 【確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校】 富田林市立金剛中学校 【言語能力をはぐくむモデル校】 四條畷市立忍ヶ丘小学校 【情報活用能力をはぐくむモデル校】 高石市立東羽衣小学校 八尾市立成法中学校 ●講 演 子どもたちの資質・能力を育むための学習活動や授業改善 泰山 裕（中京大学 教授）		

第9分科会	定員 100 名	12月25日(木) 14:00~17:00
そこに先生と子どもたちがいるからこそ生まれる質の高い学び 子どもたちの資質・能力を育成するために、学校現場の先生方は、より質の高い「主体的・対話的で深い学び」をめざそうと、日々、授業改善に取り組んでおられます。その一方で、「教師の指導性」を発揮することなく、子どもに学びを委ね過ぎるがゆえに、学びから取り残される子どもはいないでしょうか。本分科会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について今一度見つめ直し、質の高い「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教員が大切にすべきことについて、改めて考えます。		
●実践発表（ポスターセッション） ※15分のセッションを3回行います。5つの実践発表から3つを選択し、参加していただきます。 ・小学校国語科 ・小学校社会科 ・小学校算数科 ・中学校理科 ・中学校外国語科 ●講 演 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして ～「個別最適な学びと協働的な学び」と「教師の指導性」を見つめ直す～ 加 固 希支男（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官）		

第10分科会	定員 100 名	12月26日(金) 9:30~12:30
首席が活躍する学校づくり ～学校組織のさらなる活性化にむけて～ 各学校の抱える今日的な課題の解決や学校教育目標の達成に向けては、校務の要である首席の役割が重要です。 本分科会では、府立学校の校長・准校長、教頭、首席の先生方に実施したアンケートの分析結果の報告や実践発表等をもとに首席が学校組織の中で十分に力を発揮するための方策について、みなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。		
●報 告 アンケートの分析結果より ●実践発表 府立高等学校 首席 府立支援学校 首席 ●交 流 学校組織のさらなる活性化に向けた首席の在り方 ●講 義 学校組織のさらなる活性化に向けた首席の在り方 脇本 健弘（横浜国立大学 准教授）		

第 11 分科会	定員 100 名	12 月 26 日(金) 9:30~12:30
地域で「よみ・かき・ことば」をともに学ぶために ～大阪府識字・日本語学習シンポジウム～ 文字を「よみ」「かき」、「ことば」を学び使うことは、すべての人にとって大切な権利です。大阪府内には 200 を超える識字・日本語教室があり、子どもの頃に十分に学ぶことができなかった人や、外国から来て日本に住むようになった人などが学んでいます。こうした教室の運営や学習者の支援等について、市町村における実践事例を紹介するとともに、2 人の講師に御講演いただき、地域における識字・日本語学習活動について、ともに考え、さらなる充実を図る機会とします。 ●実践紹介 文部科学省「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」参画市による報告 池田市、吹田市、茨木市 ●講 演 大阪府における識字・日本語学習 ～「これまで」と「これから」～ 森 実（大阪教育大学 名誉教授） 新矢 麻紀子（大阪産業大学 教授）		

第 12 分科会	定員 70 名	12 月 26 日(金) 9:30~12:30
「総合的な探究の時間」を探究する ～各教科等の授業づくりをつなぐ架け橋に～ 「総合的な探究の時間」（総探）の活動で、「生徒が主体的に課題を設定できない」、「調べ学習で終わってしまう」…などのお悩みはありませんか？ 総探では、生徒が教科での学びを生かしながら社会や実生活とつながりを感じられる課題に取り組めるようにし、生徒たちが本来持っている探究心を引き出すことが重要です。本分科会で、これまで自校になかった探究的な活動を、様々な学校、様々な教科の先生方の知恵と経験を持ち寄ってデザインしてみませんか？ ●講 演 生徒が真正面から社会課題にぶつかっていく「探究」とは 岡崎 裕（和歌山大学 教授） ●実 践 発 表 生徒の探究心を引き出すファシリテーション 府立夕陽丘高等学校 ●ワークショップ 生徒の心に火をつける探究課題のデザイン		

特別講演	定員 400 名	12 月 26 日(金) 14:00~16:00
------	----------	--------------------------

生成A I の時代に幸せに生きるための学び

近年、生成A Iは思いどおりの文章やイラストなどを創作し、日常的な会話の相手にもなりえるものとして、子どもたちでも簡単にアクセスできる身近な存在になってきています。このような時代における、教育の役割とは何でしょうか？ この特別講演では、慶應義塾大学 今井 むつみ 名誉教授より、今、子どもたちに必要な資質・能力とはどのようなものかについてお話しいただく予定です。子どもたちが幸せに生きるために、教育という人間の営みにおいて私たちにしかできないことを一緒に考えていきませんか。

●講 演 生成A I の時代に幸せに生きるための学び
今井 むつみ（慶應義塾大学 名誉教授）

